



## 色即是空

経営学部長  
経営学科 教授

### 村田 利喜彌

表題に掲げております「色即是空」という言葉は、思い出深いものがあります。といたしますのは、私が中学生だった頃に、今は亡き父親から、「仏教には般若心経というものがあって、その中に『色即是空』というのがある。これは、『色』はプラスを指しており、『空』はマイナスを指している。『苦』というマイナスが大きければ大きいほど、『楽』というプラスが大きくなる。つまり『色即是空』の『是』は、インドで発見された〈ゼロ〉を指しており、この世の森羅万象はゼロであると教えている」ということを聞き、その当時詳しくは分からなかったけれど、仏教の般若心経はすごいことを説いているのだと思いました。

一般的には、「色即是空」の「即是」は「イコール」に

あたると考え、「色=空」、すなわち「形あるものは空である」と解釈されています。文学の領域では「空」を「無常」と表現しており、「無常」とは、この世のすべてのもの(色)は、生まれたり、消えたりして、固定化したものは何もなく、すべて移ろいゆくという意味だとされています。この点では、父親が私にいった「是」がゼロを指すとの解釈は見受けられませんが、この世の森羅万象につきプラスマイナスゼロということについては共感を覚えています。

般若心経は、600巻にも及ぶ「大般若波羅蜜多経」のエッセンスを、わずか本文262文字にまとめられたものであり、一文字一文字に重要な意義があるものです。本学では、開講時に毎週行われる「仏教」の時間において、瞑想・写経・読経・聖歌斉唱が行われています。また、仏教についての「講話」があり、仏教の教えを学ぶことができる環境が整っております。これからも仏教について実践行をする中で、より深く理解し、迷いの世界である此岸から心やすらかな世界である彼岸に渡れるよう努力したく思っております。



## Will Power 「よく<sup>おも</sup>念いて聖となる」

人文社会学部  
日本学科 教授

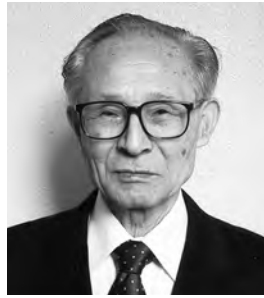
### 藤谷 厚生

今から千四百年前に、我が国に仏教を導入し、日本文化や国家政治の基盤を創られたのが、聖徳太子です。太子の仏教的精神は、今日でも三経義疏や十七条憲法を通して学ぶことができます。その十七条憲法の第七条に、「世に生まれながら知る人、少なし。よく<sup>おも</sup>念いて聖となる。」という言葉があります。これは、現代語訳的には「世の中には、生まれつき何でも知っている完璧な人(聖人)は少ないのである。(そうではなく、人は理想や目標を掲げ、それを)強く強く思い続けることによって、聖人にも到達できるのである。」という意味です。

「よく<sup>おも</sup>念いて」の「念」とは、「いつも思うこと」「心に深くふり返ること」を意味しています。インドのサンスクリット語では、スメリティ(Smṛti)と言います。この言葉は、「念」とか「憶念」と漢訳されますが、心に思いうかべて忘れないようにすることを意味します。強い意志を持ち続けることが、実は自己啓発にはとても大事なのです。理想や目標を掲げ、心の中でいつも「こういう人に成りたい!」「こういう目標を達成したい!」と強く念じていると、必ずそれが達成できると、太子はここで仰っておられる訳です。

近年、アメリカの心理学者によって Will Power(意志力)の特性や必要性が、自己啓発の観点で極めて重要であり、Will Power に関する書籍がベストセラーとなっています。今から千四百年前に、日本人で初めてこの Will Power の重要性を提唱したのが、実は聖徳太子であった訳です。学生の皆さんには、ぜひ自己自身の理想やこれからの目標をしっかりと定め、それをいつもいつも心に念じて、日々の勉学に精進して頂きたいと思います。

## 60兆社員の大社長



本学名誉教授

三島 佑一

### 60兆の細胞を60兆の社員と考えると

私達はラッシュで沢山の人の渦に巻き込まれると、何と自分は小さい存在かと思えます。が、こんな考え方をすると見方が変わります。

私達の体は60兆の細胞からなっていることは誰でも知っています。そう驚きません。が、その細胞を1人1人自分の社員に見立てると、この地球上には60億以上の人がありますから、60兆はその1万倍、1万の地球が必要になります。社長の自分が架空のロケットに乗って1つ1つの地球を1日ずつ訪ねるとしても、1万日かかります。生まれてから死ぬまで、百歳まで生きてひたすら1万個の地球の社員を視察するだけでも大変です。

さらに60兆の社員を横に1列に並んでもらい、その前を視察するとすると、2人で横幅1メートルとして約30兆メートル=300億キロメートル、地球は1周約4万キロですから、75万回まわる長さになります。毎日40キロ歩いても地球1周に約3年かかりますから、75万回まわるとなると3倍の225万年かかります。百歳まで生きてひたすら歩きつづけても、2万2500回生まれ直さないと歩けない長さです。それだけの莫大な数の社員が自分の中で昼も夜も働いてくれているということです。

と考えると、ラッシュの人たちは皆、私の社員で私という大会社のために働いている姿を見せてくれているのだという見方ができます。すると、皆さんありがとう、ありがとうと感謝する心になるのではないのでしょうか。まして60兆の社員は60兆の仏様と考えると、これはもう身がひきましますね。

あるいは宇宙に無数に星があるのは、自分という「人間宇宙」の内部を拡大して見せてくれているともれますし、逆にこの地球や月や火星や金星は、「宇宙人間」(そんな見方もできます)の60兆の細胞の1部を見せてくれているともいえます。

### 「父母の歌」岡村純先生の思い出

話は変わりますが、かつて本学教授だったNTT西日本大阪病院の名誉院長だった岡村先生は、「父母の歌」を歌うたびに涙

があふれて止まらない、厳しかった父、優しくった母の思い出が沸々として現われ、そのたびごとに感激が新たになる、そしていつも冬の寒い日に裸で放り出された時の思い出が新しく蘇ってくる、という文章を書かれ、スパルタ式の教育を受けた父親をずっと恨んでいたが、父の年を越え、若い時には恨みそのものだった当時の思い出が懐かしく思え、むしろ「これほどまでに私のことを心配してくれるのは父だけだな」と思うようになり、今は亡き父母と話したくて話したくてたまらなくなっている。夏のごとく激しく冬のごとく厳しい父が懐かしく、もう一度怒ってほしいと思ってももう父はいない、「父母の歌」を歌いながら、父母は空であり土であることを改めてかみしめたと結んでいらっしやいます。

岡村先生はさつきも研究室で「父母の歌」を歌ってききましたといわれたりしました。

- 1 父は夏 激しきことば 夕立と なりてすがしく  
父は冬 厳しきさとし 白雪と なりてきらめく
- 2 母は春 優しきひとみ 野の花と なりてしたしく  
母は秋 愛しきうれい 紅葉と なりてささやく
- 3 父母は空 果てなきねがい 行く雲と なりてせつなく  
父母は土 安けきぬくみ 揺籃と なりてゆるるる  
(「父母の歌」 三島佑一 作詞 塩見直子 作曲)

先生は数年前に亡くられました。歴史はどんどん流れて行きます。

### 息を吐く一私の社員が手を振ってくれる

皆さんはまだ若いです。1万個の地球をまだ少ししか回っていないし、60兆の社員のほんの僅かしか挨拶していない。ということは自分というもののちょっとだけしか知らない。まだまだ知らない自分がたくさんある。一生かかってもまだわからない自分があるとさえいえます。

私は自分一人と思うとき、大きく息を吐きます。すると100人の社員が空中に散って、まわりから私に手を振ってくれます。歩く時も、うつ向いて歩きがちですが、つとめて上を向いて、大きく空中に息を吐きます。すると向こうから社員たちがにこにこして私を歓迎してくれます。60兆の大会社の大社長、しゅんとしていては申訳ない、私一人ではないのです。60兆の社員のお手本にならないといけない、そう思って胸を張って30°上のはるかかなたを見つめて歩くようにしています。

本学は自然環境抜群です。校門を入るとスッとします。そんなとき特に胸を張って、60兆の社員と語りながら歩いて下さい。

### —— ウパーヤ学生編集員の活動

仏教文化研究所では26(2014)年度から「ウパーヤ学生編集員」を募集し、学生の皆さんにも本誌ウパーヤやホームページの編集・執筆に参加してもらっています。

本誌「聖徳太子のゆかりの地をめぐる」の企画では、6月に法隆寺、12月には信貴山朝護孫子寺を実地取材して記事にしてもらいました。前号および本号の第4面が学生編集員による記事です。

また共通教育科目「仏教実践演習」で春と秋に実施している学外実習にも体験参加して、野中寺での座禅や寺内見学の様子を

### —— 興味のある方はぜひご参加ください!

HPでレポートしてもらいました。写真はその様子です。

現在5名ほどで活動していますが、引き続き有志の参加をお待ちしています。仏教やお寺、仏像などに興味のある方は、第4面下の研究所員やE-mailを通じてご連絡ください。



(矢羽野 隆男)

## 第6回 卒業生インタビュー

話し手：幡田 丈（はりた じょう） ホームヘルパー（介護福祉士）

平成19年3月 短期大学部生活科学科生活福祉専攻（現生活ナビゲーション学科ライフケア専攻）卒業生

聞き手：桃尾 幸順（仏教Ⅰ・Ⅱ 導師・日本学科講師・本欄編集）

### ホームヘルパーの仕事

ホームヘルパー（訪問介護員）というのは、自宅で高齢者や障がい者が日常生活をするのに必要な、家事、買い物、入浴、排泄などの支援を行う仕事です。仕事は固定的なものではなく、相手のニーズに合わせて多様なサービスを行っています。この仕事で若い男性は珍しいのですが、実は大柄な男性の入浴介助や階段昇降の介助などの力仕事もあるので、必要とされる場面は多いです。また自分の孫のように接していただき、訪問を楽しみにして下さる高齢者もおられます。家事が中心になる仕事なのでベテランの女性が多い職種ですが、力仕事の他にも、パソコンでの情報検索など若い人材にも活躍の場はたくさんあります。若手からベテランまでの男女がそれぞれ必要とされる仕事なのです。

またホームヘルパーはさまざまな経験を活かせる仕事でもあります。私は卒業してからまずアパレルメーカーに就職したのですが、そこで学んだ服のたたみ方やアイロンのかけ方、洗濯の仕方などは今の仕事にも役立っていますし、より良いサービスを提供しようと思う意識もその時に身につけたものです。学生時代に友人たちと遊んだことも、高齢者や障がい者との会話や外出の付き添いをする際に役立っています。

### 礼拝について

私は四天王寺羽曳丘中学校、高校出身ですので礼拝の独特の雰囲気には慣れていましたが、当時は何のために礼拝をしているのかはよくわかっていませんでした。礼拝の時間に良くしていたのは人間観察です。礼拝は多くの学生が参加する時間で、いろいろな学生がいますし参加態度もまちまちです。それらを見ているのが楽しかったです。このことは今の仕事にもつながっていて、いろいろな人と出会い、接することが苦ではなくむしろ楽しく感じられます。いろいろなタイプの人に興味を持つことは、どんな仕事をするにも役に立つのではないのでしょうか。

そして、今思い返せば、礼拝の時間は忍耐力を育てる時間であったと言えます。礼拝の静かな空間は、慣れるまではそわそわしてしまうものですが、それに耐えることで忍耐力が身につくのです。私は中・高・短大と8年間も礼拝を続けたので、瞑想では無心に近づけましたし、写経も苦にならなくなりました。元々私はあまり腹が立たない方でしたが、礼拝を経験してからは怒りの感情が起こってもそれをコントロールできるようになりました。

### 学園訓について

私が入学前からやっていた柔道は礼に始まって礼に終わります。ですから礼儀を重んじるということはよく理解できました。特に挨拶は最初に就職したアパレルメーカーでも重視されていて、今でも大事にしています。また誠実というのは目の前に困っている人がいれば助けるということであり、それが相手や周りから信頼されることだと思っていますので、それを実践していきたいです。何事も前向きな姿勢が大切です。



### 在学生へのアドバイス

私はしんどいと思うことこそ楽しくするべきだと考えています。楽しくないことに出会ったときは、自分が何を不満に感じているのかわかれば、それを改善することができます。礼拝をしんどく感じる人もいますが、是非工夫をして楽しい時間にしてください。楽しむことでより成長することができるし、多くのことが学べるはず。これは将来、仕事をするようになって役に立ちます。就職すると自分のやりたいことだけを行っていくことはできません。限られた環境の中で、自分らしさを大切にし、楽しく仕事をするのが重要です。仕事をしていく中では、誰かが犠牲にならないようにする必要があります。経営者もホームヘルパーも利用者とその家族も皆が幸せになるように工夫すべきなのです。

もう一つ大切なことは、友達を作ることです。当時の生活福祉専攻の学生はまじめな学生が多かったのですが、私は活発な性格でしたので、中々周りや打ち解けることができませんでした。入学して半年間は同じクラスの学生とはほとんどしゃべることはありませんでした。その時は学校をやめることも考えていました。ある時思い切ってクラス全体に声をかけて、遊びに行ったのですが、それをきっかけに大きく学生生活は変化しました。それまで福祉に興味があるまじめな学生だと思っていた周りの学生はそれぞれ面白いところがある、様々な性格の学生でした。それ以来よく話をするようになりましたし、様々な機会に皆で一緒に行動するようになりました。クラスで水無月祭に参加したこともありました。学生時代は趣味や性格が違う人たちと出会うことができる時期です。是非いろいろな人と積極的に関わって、友達を増やして欲しいと思います。

### 平成26年度 冬学期「仏教Ⅱ」 講話題目

- |                                      |   |
|--------------------------------------|---|
| 9月18日 桃尾 幸順先生「オリエンテーション」             | 11月27日 島田 和幸先生「『仏様の指』とは」  |
| 学長 西岡 祖秀先生「写経の意義」                    | 12月 4日 斎藤 敏之先生・坂本 暁美先生 & e-COCOROE プロジェクト                                 |
| 9月25日 鈴木 崔史先生「写経の仕方・作法」              | 学生（青柳佑奈さん、浅沼美咲さん、大野正暉さん、笠原悠司さん、伊藤輝彦さん）「人権週間になんでーメディアリテラシー～SNS 便利と危険は紙一重～」 |
| 10月 2日 桃尾 幸順先生「写経について」               | 12月11日 毛受 矩子先生「危険ドラッグ防止について」  |
| 10月16日 矢羽野 隆男先生&学生（岩田和希さん）「海外体験について」 | 12月18日 桃尾 幸順先生&学生（喫煙マナー向上委員会委員長 酒井杏有奈さん）「学内の喫煙マナーについて」                    |
| 10月23日 藤谷 厚生先生「菩薩の精神」                | 1月 8日 上續 宏道先生「『和顔愛語』について」   |
| 10月30日 三島 佑一先生（本学名誉教授）「60兆社員の社長」     | 1月15日 矢羽野 隆男先生「学園訓について一恩と日常」  |
| 11月 6日 兼子 恵順先生「般若心経について」             |   |
| 11月13日 石田 晋司先生「デートDVについて」            |   |
| 11月20日 藤谷 厚生先生「縁起について」               |   |

## 聖徳太子ゆかりの地をめぐる

### 信貴山朝護孫子寺 (奈良県生駒郡平群町)

信貴山といえは毘沙門天の総本山として有名ですが、じつは聖徳太子とゆかりがあることをご存知でしょうか。

聖徳太子が11歳の時、この信貴山で毘沙門天への信仰を得ました。それがちょうど「寅の年、寅の日、寅の刻」だったことから、寅(トラ)は信貴山のシンボルとなっています。当寺の霊宝館に展示されている『太子軍絵巻』によると、16歳の時に蘇我氏と共に、仏教に反対する物部氏との戦いで苦戦し、三度も退却を強いられた太子は、仏のご加護を受けるために白膠木の木で四天王像を刻ませ、物部氏討伐を祈りました。すると、毘沙門天が靈力を持った弓矢を授け、太子は物部氏に勝利し、約束通り毘沙門天を祀る「まことに信ずべく貴い山」という意味の信貴山寺を建立したと言われていいます。そのため、開山堂には信貴山の開祖として聖徳太子の像が祀られています。

写真にある聖徳太子像は、文化勲章を受章した彫刻家の北村西望氏により制作されました。物部氏との戦いで



の勇敢で凛々しい太子のお姿が目につきます。また、その傍らには樅(かや)の木があり、1500年前からこの地に根を張り、現在に至ります。

本堂に祀られている毘沙門天は、古くから財福や無病息災そして戦闘の神として篤く信仰され、江戸時代になると勝負事の神としても崇めら



れました。日本では四天王の一人としてお祀りする場合は「多聞天」、単体でお祀りする場合や七福神では「毘沙門天」と呼び方が変わります。武士からの信仰も篤く、有名な人物では楠木正成、武田信玄、松永久秀、上杉謙信などが熱心な信者でした。

本堂は舞台造で建立されており、1592年から再建を繰り返して現在に至ります。東に面しているため斑鳩の里が一望でき、毎朝ご来光を拝むことができます。本堂下には願いが叶うといわれている宝の珠「如意宝珠」の周りを回る「戒壇めぐり」が体験できます。心願成就を祈る修行で、暗闇の回廊を約5分歩きます。回廊の壁をたどると途中に大きな鉄の錠前がかかっており、この錠前に触れると如意宝珠に触れたのと同じ功德が与えられると言い伝えられています。

信貴山から開運橋を渡った門前の土産物屋では名産のよもぎ餅を味わえます。よもぎは信貴山で採れたものを使用しているそうです。広い境内を参拝した後の疲れを癒してくれること間違いなしです。

(ウパーヤ学生編集員：田村美咲・松浦華子)

## 仏教のことば

### 三宝

仏教には三宝(さんぼう)という重要な言葉があります。この三つは仏・法・僧のことを指し、この上なく尊く、宝のようなものであることから三宝といわれます。

仏(Buddha・仏陀)とは、真理に目覚めた人を意味し、悟りを開かれたお釈迦様(教主)のことです。法(Dharma)は、仏が説かれた教え(教義)、これは仏になるための規範であり、真理ということにもなります。

僧(Sangha・僧伽)は、仏の教えにのっとり、共に悟りを求めて修行する人々の和合集団(教団)のことです。

聖徳太子は十七條憲法の第二條を「篤く三宝を敬え。三宝とは仏と法と僧なり。」とされ、この三宝を骨子として、日本の国を治めようとしたわけです。この三宝に帰依する(信じてよすがる)ことを「三帰」あるいは「三帰依」といい、仏道に入るための最も基本的な条件とされています。

仏教について知るといことは結局の所、この三宝を知り、それを敬う心を養うことにつながるわけです。

この仏・法・僧の三宝を現代的に分かりやすく表現するならば、我々の日常生活の中での生き方や心掛けとして、「明るく」「正しく」「仲良く」という言葉に置き換えることができるのではないかと思います。

(上 續 宏道)

## 編集後記



今回は、「父母の歌」の作詞者である三島先生から、「60兆社員の大社長」というお話を頂きました。なるほど、私どもは細胞の集積体であり、むしろ60兆の細胞が社員となって私という会社が運営され、一個の人として「私」が生かされているという事実に気づかされました。これはまさに縁起の理法についてのお話でした。

また、卒業生インタビューでは、幡田さんからしんどいことを楽しくする工夫が必要であり、そうすることで人間は成長できるというお話も伺えました。物の見方、発想を転換することで、私たちの見る世界や生活が大きく変わるかと思えます。今後も、勉強になるお話を掲載して参ります。次号にもまたご期待ください。合掌 (A.F)

### 研究所員紹介

所長 西岡 祖秀(学長・教授)  
主任研究員 矢野野 隆男(教授)  
研究員 兼子 恵順(教授)  
藤谷 厚生(教授)  
源 健一郎(教授)  
上 續 宏道(准教授)  
桃尾 幸順(講師)  
南谷 恵敬(客員教授)

### UPĀYA(ウパーヤ) 6号

ウパーヤとは「高い目標へ到達すること」を意味し、漢訳では「方便」となります。

平成27年4月1日発行

発行 四天王寺大学

仏教文化研究所 仏教教育センター

所在地 大阪府羽曳野市学園前三丁目2-1

TEL:072-956-3181(代) FAX:072-956-0611

URL:http://www.shitennoji.ac.jp/

「UPĀYA(ウパーヤ)」に関する  
ご意見やご感想はこちらへお寄せください。  
E-mail bukken@shitennoji.ac.jp  
(件名は「ウパーヤ」としてください)

